



指名手配の男

1月29日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

1月29日のおはなし「指名手配の男」

熱烈なホームジアン（アメリカ風に言うならばシャーロキアン）ならば、誰しも考えたことがあるだろう。4つの長編と56の短編以外にもホームズに活躍してほしいと。彼とワトソンとの会話をもっと聞きたい。そしてワトソンを辟易させるような化学実験やコカイン癖などの奇癖に関するエピソードを知りたい。あるいは、秘めた思いを込めてヴァイオリンを演奏する孤独な姿に触れたいと。いやいや。もっと単純に、超能力としか思えないあの卓抜した推理をひとつでも二つでも多く聞かせてほしいと。

わたしが『指名手配の男』を書いたのはまさにそういう理由からであった。当時まだサー・アーサー・コナン・ドイルはシャーロック・ホームズシリーズを書き続けていたが、『帰還』以降はいやいや書いているのがはっきりわかった。そう遠からずまたホームズを殺すか、失踪させるのは間違いないと思われた。聞く所によると要するにサーは、あのくだらない空想科学物や冒険物を書きたいらしいのだ。そしてホームズを書くことに飽き飽きしているから殺したいらしいのだ。そんな馬鹿げた話があるか？

もしサー・アーサー・コナン・ドイルがこれ以上ホームズ物を書きたくないというのなら、わたしが代わりに書いてもいい。そう思いついた。そうだ。読みたいものは自分で書くしかない。それをサー・アーサー・コナン・ドイルが認めてくれさえすれば、晴れてサーはくだらないチャレンジャー博士シリーズを書き続け、同時にシャーロック・ホームズシリーズも世の中に出し続けることができる。

アイデアは次々と湧いてきた。最初の作品が『指名手配の男』だ。人間がまるで神隠しのようにならなくなってしまったら。そしてホームズが目の前で犯人に逃げられてしまったら。そんなシチュエーションに置かれたらプライドの高いホームズはどうするだろう。そしてどのように解決するだろう。

そこで考えたのがこういうプロットだ。スコットランドヤードの依頼で、大西洋航路を渡ってくる指名手配犯を待ち受けるホームズ。けれども脱出不能のはずの船上から犯人はこつ然と姿を消してしまう。途中どこかに寄港したわけではない。予備のボートもなくなっていない。指名手配の男は船の上にもまだいるか、最初からいなかったかのどちらかしかないのだ。ニューヨークから乗船したことは間違いない。船内をくまなく探しまわるホームズはやがて床材の間に挟まれた新聞の切れ端に気づく。建造中に誤って取り残されたらしいその新聞の日付は.....。

書き上げたわたしは、自分で言うのも恥ずかしいが、これはまさしくシャーロックホームズシリーズの中の1篇だと感じた。わたしはカーボンコピーを取りながらタイプを打ち、サー・アーサー・コナン・ドイルに共著名義で出さないかと持ちかけた。サーの返事は共著はいやだ、

プロットを10ギニーで買い取るという物だった。10ギニーは受け取ったが、結局サーはそれをライトもしなかったし、いかなる形でも作品にしようとしなかった。ホームズ物なんか全然書きたくなかったのだ。そう気づいてわたしはまた次の作品を書いた。その出来は『指名手配の男』をはるかに上回る物だった。サー自身の手になる作品としか思えなかった。

その作品に対する反応は違った。そのまま使うので100ギニー払う。ただしこのことは絶対に他言無用とのことだった。次の作品も。その次の作品も。1948年に誰かおせっかいな人間が『指名手配の男』の原稿を見つけて61番目のシャーロックホームズものとして発表した時、わたしは思った。この作品は10ギニーしか貰っていない。他言無用とも言われていない。だからそれがわたしの作品だということを公表しよう。そうすればあるいは、『事件簿』に収録されている作品の半数以上がわたしの作品だということに誰かが気づいてくれるかもしれないから。

(「シャーロックホームズ」 ordered by 編集S-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

● [「SFPインデックス」](#)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

指名手配の男

<http://p.booklog.jp/book/43212>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43212>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43212>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.